

大町ふくしだより

87号

発行 大町地区社会福祉協議会
編集責任者 吉村 忍 37-8765

令和3年度共同募金(赤い羽根・歳末助け合い募金)運動について

赤い羽根共同募金は、昭和22年から始まり、10月より3月まで全国一斉に実施され、地域福祉の推進を目的として使われています。現在まで民間福祉活動を支える財源として多くの施設、団体活動を支援するとともに、様々な福祉活動、豪雨災害などの被災者支援活動に使われています。



令和3年度共同募金目標額(大町地区社協分)

	世帯数	目標額	前年度募金額
赤い羽根	2,386戸	596,000円	425,700円
歳末助け合い募金	2,386戸	430,000円	439,660円

令和3年度の地域計画分(市社協の事業)の予算配分は、

・当事者団体、被害者施設、地域社協などへの配分	310万
・日常生活自立支援事業	309万
・地域社協助成金事業	261万
・地域福祉活動計画(鎌倉支え合い福祉プラン)事業	51万
・近所の団らん助成金事業	30万
・福祉功労者表彰事業、福祉まつり事業	41万
・災害見舞金等給付事業	20万
・その他、福祉教育、福祉団体助成金	43万

*共同募金の意義をご理解いただき、ご協力のほどお願い申し上げます。

赤い羽根の由来

赤い羽根は、共同募金運動開始後2年目の昭和23年から始まりました。当時、街頭募金の寄付済みの印として何を採用するか検討が行われ、同時期にアメリカでも社会福祉のため水鳥の羽根を赤く染めて使っていることにヒントを

得て、日本でも鶏の羽根を使うことになりましたが、戦後の世相の中で、明るい心の触れ合いを求めようとする人々の感情をとらえたのか、“赤い羽根”は、日本国中の人々の胸に飾られ、製造が間に合わないほどでした。

令和3年度 神奈川県内赤十字事業予算(一般会計分)について

1 災害救護事業 (265,450千円)	7 市区町村における赤十字事業の促進 (126,500千円)
2 健康・安全事業 (48,068千円)	8 看護師の養成 (13,060千円)
3 国際活動 (121,870千円)	9 社会福祉事業 (5,439千円)
4 赤十字奉仕団 (28,336千円)	10 医療事業 (293,540千円)
5 青少年赤十字 (23,402千円)	11 血液事業 (5,332千円)
6 赤十字思想の普及 (100,522千円)	12 業務管理運営費 (200,459千円)
合計 (1,231,978千円)	

新型コロナウイルス感染対策

Q & A



Q 1番効果のあるワクチンは？

A 現在、日本ではファイザー社、武田/モデルナ社、及びアストラゼネカ社のワクチンが、接種の対象となっています。いずれのワクチンも、海外で数万人単位の大規模な臨床試験が実施されており、発症予防効果は、ファイザー社のワクチンが約95%、武田/モデルナ社のワクチンが約94%と、高い効果が確認されています。日本で接種可能なワクチンは、いずれのワクチンでも接種することをおすすめします。

Q 知人が感染、その時の対処法

A

- ・お互いにマスクなしで、手が触れる距離で15分以上会話した場合や
- ・感染者がマスクを着用せず、手が触れる距離で15分以上会話した場合には感染の可能性が有ります！
- ・感染者と最後に会った日から14日間は、健康観察を行ってください。
- ・ご自身で検査を受けて陰性であったとしても、14日間の健康観察や外出自粛をお願いします。

1日2回、体温を測りご自身の健康状態を確認
 仕事を含めた不要不急の外出は控えること
 他の人との接触をしないようにすること

- ・症状が有る場合、症状は無いが、不安なので検査を希望する場合は
 かかりつけ医・お近くの医療機関に受診する
 県の専用ダイヤル(0570-056774) お住いの自治体のコールセンターに相談する

Q 感染者にならないためには

A

1. 換気の徹底
2. 手洗い(手指消毒)
3. マスクは正しく常に着用
4. 友人などと集まりたい時は、オンラインで行うなど工夫を
5. 体調不良時は仕事や学校を休む
6. 食事、おやつ、歯磨きなど、マスクを外す場面では
 会話をしないなど、飛沫に注意
7. 目や鼻など首から上を触らない

